

令和6年度
第4次光市地産地消プランに関する主要事業
SDGsチャレンジ
「光ひまわりプロジェクト」事業



SDGsチャレンジ「光ひまわりプロジェクト」事業

目的

耕作放棄地の解消とSDGsへの貢献として、R5事業検証を踏まえ、ひまわりを「光をイメージする花」としての定着や6次産業化による商品開発・販売促進、種の利活用など、**持続可能(sustainability)な循環型の事業サイクルの確立**を目指す。



効果

- ☀ 耕作放棄地の活用と再生
- ☀ 農地景観の維持、連作障害の防止
- ☀ SDGsへの貢献
- ☀ ひまわり定着によるイメージ戦略
- ☀ 6次産業化を通じた商品の開発・販売⇒販売農家の所得拡大

R5検証

【ひまわり見学会の実施】R5.7.29(土)小周防の圃場にて
様々な趣向を凝らした「ひまわり見学会」を小周防にて初めて開催
※どこでもドアの設置、イラストチャレンジなど 参加者150人

【6農業者へ事業委託】

6農業者のうち鑑賞用2、油糧用2、食用2に分けて播種、生育の実証実験を委託
⇒(実施結果)観賞用2か所は十分生育したが、油糧用食用ひまわりは育たなかった。
⇒農業者との意見交換を踏まえ、ひまわり油、食用開発はさらなる研究課題とする。



☀ **SDGsの理念を踏まえ、市民を巻き込んだ事業展開の構築** ☀

SDGsチャレンジ「光ひまわりプロジェクト」事業

目指す姿

- ・市民参加によるプロジェクトの推進
- ・様々な取組(事業)との有機的な連携
- ・ひまわりを活用した新たな農作物の栽培促進
⇒販売農家の所得・販路の拡大 など

★持続可能な(sustainability)
循環型事業サイクルの確立★



事業概要

🌻【戦略1】～ひろげる～

ひまわり畑 市内全域 **拡大** 作戦～

【光ひまわりおひろめ隊】隊員として、市民より募集(10名程度)。

隊員が管理する遊休農地等に種を撒いてもらい、ひまわりを咲かせる取組を実施。隊員には、必要な量の種を配付(里の厨等)。

※隊員には農林水産課より隊員認定証を交付

【条件の付与】

隊員はSNS等で日々の生育状況を情報発信など



SDGsチャレンジ「光ひまわりプロジェクト」事業

⚙️【戦略2】～つなげる～

ひまわり畑 市内全域 **連結** 作戦

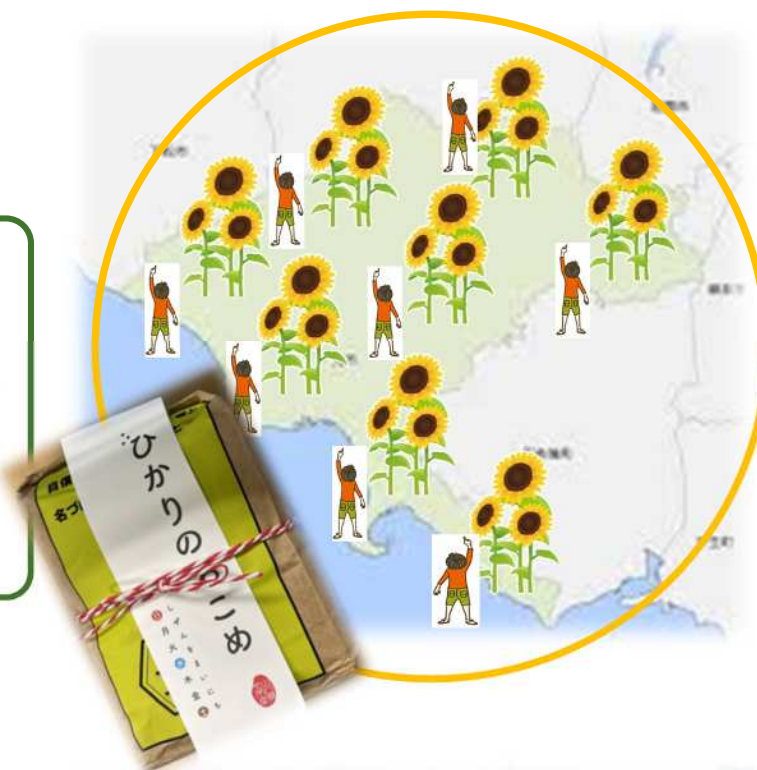
地域に広がるひまわり畑を(例)スタンプラリー等の仕掛けでつなぎ、市民の見学意欲を促す。
市内に展開するひまわり畑を全て回った達成者には賞品を授与する仕組みを構築。
⇒賞品は「米消費拡大推進事業」で取り組むPR用のお米を活用、光市産米のPRにもつなげる。

事業概要

⚙️【戦略3】～たのしむ～

光のひまわり 市民全員で **PR** 作戦

ひまわりの生育状況を踏まえ、市内1箇所で開催者がより楽しめる「ひまわり見学会」を開催。
「光市の夏＝ひまわり畑」を参加者とともにPR、イメージ戦略。※継続性を重視し、R5と同じ圃場(小周防)での開催を想定



SDGsチャレンジ「光ひまわりプロジェクト」事業

🌻【戦略4】～たかめる～

ひまわり畑から生まれた ひかりの〇〇〇 **6次産業化** 作戦

秋には同農地でひまわりを肥料(SDGs)に新たな野菜等の栽培を促進。販売の際は、本市補助事業「農林水産物高付加価値化促進事業補助金」の活用を促し、新たなネーミング「(例)ひまわり畑から生まれたひかりの〇〇〇」といった付加価値を与え、本市の特産品として販売、販路拡大を支援。



本市補助事業を活用して
作成したシール

事業概要

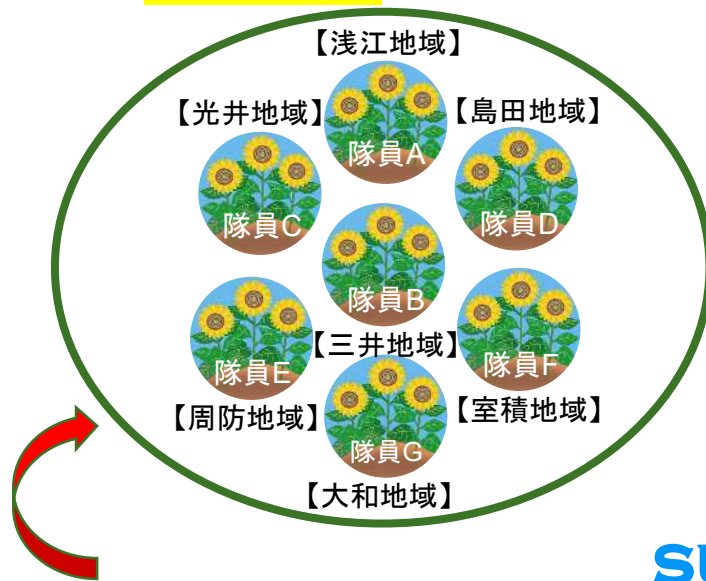
🌻【戦略5】～つかう～

ひまわりの種 市民とともに **再利用** 作戦

本プロジェクトから採取できたひまわりの種は次年度の事業展開に再利用。※島田中の取組とも連携
⇒持続可能な(sustainability)循環型の事業サイクルの実現

SDGsチャレンジ「光ひまわりプロジェクト」事業

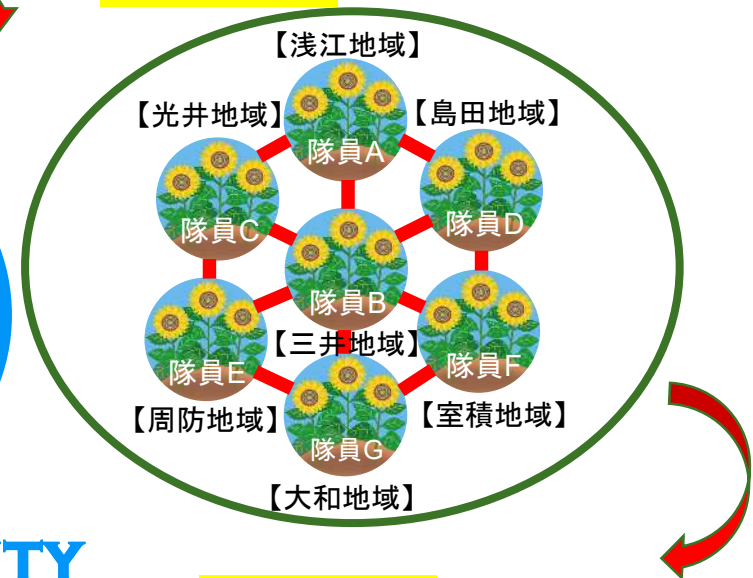
【戦略1】ひろげる



事業
イメージ

持続可能な
循環型
事業サイクル
の実現

【戦略2】つなげる



【戦略5】つかう



【戦略4】たかめる



【戦略3】たのしむ



SDGsチャレンジ「光ひまわりプロジェクト」事業

予算

令和6年度予算要求額 **計300千円①+②**【参考】R5予算:委託料600千円(100千円×6法人等)

◆【消耗品費】ひまわりの種代:10隊員分

(R5委託法人等聞取目安)圃場5a、2.5kgの種を撒くと想定

6,000円/kg×2.5kg×2品種×10隊員分 = **300千円①**

◆【消耗品費】スタンプラリー等経費(用紙等): **0千円②⇒観光シティプロ事業と連携**





令和6年度 第4次光市地産地消プランに関する主要事業

SDGsチャレンジ

「光の海の体験プロジェクト」事業



SDGsチャレンジ「光の海の体験プロジェクト」事業

目的

光の海で行われる「地引網」を活用した海を体験する機会を創出し、その体験を通して海や魚への関心を高めるとともに、地産地消、SDGsの理念の周知・啓発を図る。



効果

- 🐟 光の海の有効活用とPR
- 🐟 体験型プログラムの開発による生産者と消費者の交流促進
- 🐟 観光プログラム化による周辺観光施設との連携
- 🐟 体験を通じて引き上げられる魚や海の中のゴミなどを知ることによる光の海に対する愛着と守る意識の醸成



🐟SDGsの理念を踏まえた、持続可能な光の海の活用🐟

SDGsチャレンジ「光の海の体験プロジェクト」事業

🌊【効果1】

～光の海の有効活用とPR～

光の海では“地引網”ができる！

昔に比べ、地引網ができることを“知っている”人は少なくなっています。

体験を通じて「地引網」を知ってもらい、光の海でできる体験プログラムとして認知度の向上と情報発信を図ります。



効果

🌊【効果2】

～体験プログラムの開発による生産者と消費者の交流促進～

光の海ではこんな魚がとれる！

体験を通じて、漁業者と消費者の交流促進を図るとともに、漁獲される魚を知ることで地産地消の意欲向上を図ります。



SDGsチャレンジ「光の海の体験プロジェクト」事業

☼【効果3】

～観光プログラム化による周辺観光施設との連携～

光には他にもこんな観光施設がある！

観光プログラムとして整備し、周辺の観光施設との連携による地域経済の活性化を図ります。



効果

☼【効果2】

～光の海に対する愛着と守る意識の醸成～

光の海は綺麗でこんなに楽しい！

体験を通じて、光の海を身近に感じてもらい、その「綺麗さと楽しさ」を、これからも続けるためには、大切に守っていく必要があるという意識の醸成を図ります。



SDGsチャレンジ「光の海の体験プロジェクト」事業

事業概要

【実施内容】

- 🐟 地引網体験
- 🐟 環境学習(環境政策課事業)

【予算額】

- 🐟 委託料(地引網) 400千円
- 🐟 消耗品費 100千円

【対象及び人数】

- 🐟 小中学生を対象
- 🐟 40～60人程度 ※要検討

【参加費】

- 🐟 有料で検討

【実施時期及び場所】

- 🐟 8月末(夏休み期間中)
- 🐟 虹ヶ浜もしくは室積海岸

